

71 クレーン車による死亡事故とSAS

運送業界の健康支援を生きがいに



4月18日、栃木県の国道で通学途中の小学生にクレーン車が突っ込み、6人を死亡させた事件は、大変衝撃的で悲惨な事故でした。ドライバーの持病であるてんかんによる発作が原因でしたが、病気による事故の怖さを改めて実感させられました。

◆てんかんとSASの類似点
事故を取り巻く状況として、①会社を出ていきも走行していないところで起きている②意識がなくなる③何も覚えていない④過去にも同じような事故を何度も起こしている⑤会社に持病を隠していた、ことなどが報告されていますが、これらは睡眠時無呼吸症候群(SAS)の場合と美によく似ています。比較するとSASの場合は

①いついともいっても眠くなるため、走行時間との関連性は少ない
②深睡眠に入るため、全く意識がなくなる
③事故頻度は正常な人の約7倍といわれている
④会社に知られると運転できないと思って、隠しているケースが多い——などが挙げられます。このようにてんかん・SASとも大事故につながる大変危険性の高い病気だといえます。

◆会社のリードでSAS対策を次に大きく異なる点を挙げてみます。

①てんかんの罹患率は1%未満、SASは約20%(要治療者10%、重症者5%)
②てんかんは本人が申告しないと分かりづらいが、SASはスクリーニング検査で会社がチェックできる

SASの罹患率は約20%で、「21世紀の国民病」といわれるほど一般的な病気ですが、定期健康診断で高血圧や糖尿病が早期発見できるように、SASは簡易な検査(医療機器の貸し出しにより自宅で検査できる)で早期発見が可能です。

しかも国土交通省や厚生労働省がすでに注意喚起の通知により、企業におけるSAS検査を推奨しています。検査費用は全ト協や多くの都道府県トラック協会が2年度も助成制度を継続していますので、会社は費用負担がなく(少なくとも)、精度の高い検査を受けることが可能です。

これに対し、てんかんは本人が隠している限り、会社は手の打ちようがないというのが現状です。てんかんとSASには恐ろしいほどの類似点がありますが、SASは早期発見と確立された治療法があり、コントロールが出来ます。当法人では全ト協のSAS検査指定機関として、全国各地の事業者様のSAS検査で突出した実績があり、啓発・フォローまでをしっかりサポートさせていただいてますので、大事故が起きる前にぜひSAS検査をお受けください。

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会
SAS検査受託機関》
NPO法人 大阪ヘルスケアネットワーク
普及推進機構(OCHIS)
理事 作本 貞子
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
TEL: 06-6965-3666
FAX: 06-6965-5261
E-mail sakumoto@ochis-net.com
HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は6月13日号に掲載)